

ハチ ただいま

「ハチ、ただいま。帰りを待っていた忠犬ハチ公に、飼い主の上野英三郎博士が手を伸ばす。そんな風景を鮮やかによみがえらせる銅像が、上野博士がかつて教壇に立った東京大学の構内に建てられることになった。ハチ公の死後80年となる来年3月8日にお披露目される予定だ。

上野博士(1871~1925)は東大の前身である東京帝国大学教授として、農業土木の発展に尽くした。

一方、ハチ公は、上野博士が亡くなった後も東京・渋谷駅で帰りを待ち続けたとされる。32年に朝日新聞が「いとしいや老犬物語」と報道したこと、話題となり、生存中の34年に同駅前に銅像が建てられた。初代銅像は戦時中の金属供出で失われ、現在の銅像は48年に再建された2代目。1頭だけで座っている姿だ。

そこで、ハチ公を再び上野博士と一緒にさせてあげようと、東大の農



1933年ごろに撮影されたとみられる忠犬ハチ公

博士との像、来春お披露目 東大

学系の教員らが新たな銅像づくりを計画。昨年からインターネット上で寄付を呼びかけている。

今年11月末までの目標額は1千万円で、現在半分ほど集まった。寄付集めが軌道に乗って建立のめどがついたことから、モデルとなる模型の制作を名古屋在住の彫刻家植田努さん(39)に依頼。関係者で意見を出し合い、列車から降りてきて手を伸ばす上野博士にハチ公が抱きついていくような構図にした。

銅像制作の事務局によると、ハチ公の銅像は渋谷駅前のほか故郷の秋田県大館市にもあるが、上野博士と一緒に銅像は博士の出身地の津市にしかないという。

事務局長の塩沢昌教授は「東大の銅像は人と犬が目近くで合わせ、愛情関係がしっかりと伝わるような構図にこだわった。多くの人に見てもらうことで、大学のマスコミ的な存在になれば」と話す。構内の目立つ場所に設置することを目指す。

銅像本体の制作も担当植田さんは、動物の彫刻を多く手がけてきた。「犬が好きで、ハチ公にも映画などで親しんできた。内面的な心のつながりをどう表現するかを一番のテーマにしたい」と意気込む。

お披露目予定の1年前となった今月8日には、東大弥生講堂で開かれたシンポジウムに模型が登場し、好評だったという。寄付などの問い合わせは事務局(03・5841・5343)へ。

(大西史晃)